

第4回安曇野市誌編さん委員会 会議概要

1	会議名..... 第4回安曇野市誌編さん委員会...
2	日 時..... 令和3年12月21日(火) 午後10時00分から11時30分まで
3	会 場..... 安曇野市役所...3階...共用会議室306...
4	出席者..... 小松芳郎委員長、倉石あつ子職務代理者、堀金猛委員、笹本正治委員、原明芳委員、梅干野成央委員、宮崎崇徳委員
5	欠席者..... 上角久仁夫委員
6	市側出席者..... 太田市長、橋渡教育長、山下課長、逸見係長、幅主査、青木主査、那須野係員、
7	公開・非公開の別..... 公開...
8	傍聴人..... 0人..... 記者..... 0人
9	会議概要作成年月日..... 令和2年12月21日.....
会 議 事 項 等	
○会議の概要	
1	開会
2	あいさつ(橋渡教育長)
3	委嘱書交付
4	委員紹介
5	協議
	(1) 全体構想の確認
事務局	・『安曇野市誌』編さんの全体構想(案)及び第3回安曇野市誌編さん委員会会議概要について説明
委員	・民俗部会の進行も踏まえて発言させていただく。安曇野市を構成する諸要素の中にはたくさんの項目がある。その中には民俗・歴史・自然を横断するようなテーマがある。おそらく横断するようなテーマの中に地域性が色濃く反映されていると思う。横断するテーマをどの分野でどのように扱うのか判断できない部分があると感じる。例えば建築は民俗分野や歴史分野に跨る要素を持っているし、山岳も多くの分野に関わっている。分野を横断するテーマの扱いをどうするか検討する必要がある。
事務局	・現在の体制のように、各分野を単発的に進めていくと横断的なテーマを整理することは難しい。民俗調査の中でも歴史分野の委員に見てほしい事象もあった。この辺りが分野を単発ですすめていくことの限界と感じている。横断的なテーマの洗い出しの必要性は感じているので、各委員に意見を伺いたい。
委員	・委員の指摘は大変重要だと感じる。自治体の博物館はこうした横断的な展示ができていない。例えば、生活用品のナベ・カマ等は考古から現在まで存在しているが、展示となると年代・分野でバラバラになってしまう。時代や分野を総合的に表現する縦軸・横軸が上手く定まっていない。市誌では最低限記述すべき縦軸・横軸をはっきりしておかなくてはいけない。軸が定まっていないと民俗・歴史・考古で取り上げた共通の事項は全く違った結果になってしまう。安曇野市として何を記述したいか定めておく必要がある。分野別・時代別になると共通性がない。長野県立歴史館では令和7年度に安曇野をテーマにした企画展を開催したいと思っている。その時、例えば仏像を取り上げたとき、時代性を超えて取り上げることになる。そういった時代性を超える事象や、分野別・時代別としたときにこぼれてしまうテーマをどのように取り上げるか検討する必要がある。美術工芸などはどの分野でも問題になると思う。各分野の担当から問題になる部分をあげてもらうのが良い。
委員	・先行して進んでいる民俗部会では、ほぼ民俗編のことしか考えられない。民俗・歴史・自然を総合したものは委員の意識にない。総合したものをどうするかは、『安曇野市誌』通史編1・2のような形になると思う。それは若い世代が取り組むことになるが、例えば先ほどのナベ・カマのこと、住居のこと、衣類のこと、食べ物のことを分野別で記述することには限界がある。計画表にはないが、通史編のようなものを作ることを念頭においてはどうか。市誌の総決算として位置付

	けるものを必要に感じる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・自分は考古学が専門だが、ここにある考古編のイメージは土器や石器になってしまうと思う。しかし、今は環境史の視点も大事になっている。安曇野市はしっかり遺物の化学分析も行っており、そうした成果を入れることも大切だと思う。環境史の視点を取り上げることは、しっかり事務局が管理をしてすすめてほしい。今までの原始・古代では足りない新たな視点を加えることを意識してほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ここに呼ばれているのは学校と市誌編さんをどうつなぐかということだと思う。その視点で発言させていただく。構想の中には中学生があげられている。中学生が市誌をどう使うか考えたときに2つの場面が想定される。一つは中学歴史、一つは総合的学習の時間になる。総合的な学習の時間で取り上げる安曇野の地域を知る学習には既存の自治体誌を使用する場面もあり想定があるが、中学歴史分野ではどう想定されるか。現在の中学歴史分野は、学習指導要領では中世や近世の時代観を語ることに重きが置かれている。既存の自治体誌では全体像が把握しにくく、中学生は使用しないと思う。全体像をつかめるものが中学歴史分野では必要に感じる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市誌をどう編さんするかではなく、出来上がった市誌をどう活用するかという視点で発言させていただく。一つはあくまでも市誌を作ることは手段であって目的ではない。出来上がった市誌を市民がどう利用するかという視点が一番重要だと考える。まとめる方法は分野別になるのは理解できるが、利用するときには分野別は使わない。寧ろ現代に至るまでにどのようなストーリーがあるかの方が重要である。子どもたちに説明するには、その時代の一部分を切り取っても理解されない。今あるものがどういう過程を経てここにあるのかという方が理解できる。市誌をどうまとめるのかという部分と、使うときに組み替えられる柔軟性があるのかという2本立てで考えないといけない。もう一つは、デジタル化については構想がまとまらないと進まないという話があったが、寧ろ逆で既存の自治体誌は文字ばかりで子どもたちに対応できない。画像や写真を活用できるようにしてほしい。既存の自治体誌で収集されたものの中でも、もうすでに使えるものを見える化する、使用できるようにしてほしい。子どもの学習もタブレットの使用が当たり前になり、文理融合で進められているので、市誌もそれを踏まえたものにしてほしい。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、民俗部会をすすめていただいて大変感謝申し上げます。安曇野市は5町村が合併して、一つのアイデンティティが確立されていないと感じる。しかし一方で、5つを全て同じようにする必要はないと思っているが、5つがそれぞれ誇りをもって、全体として安曇野市として誇りを持つことが必要だと感じる。その中で市誌は重要なものになるので、完成まで時間はかかると思うがぜひ宜しくお願いしたい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・市誌の進行表を見ると、確かに分野ごとのまとめになる。今、委員の皆さまから出た総合的なもの、横断的なものはない。総論的なものが必要という意見が出た。総論的・横断的なガイドブック的なものがあって、それぞれの分野に入っていくことも想定できる。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・理想としては総論があり、各論がある市誌が良いというのは分かる。横断的な視点が必要ということは、民俗部会に自然分野の専門家が入ることによって新たな視点が生まれている。現状の市誌の編さん体制のように単発的に分野をスタートさせるのでは、横の連携に限界があることも感じている。今後、組織体制も含めて連携の在り方についても内部で検討していきたい。子ども編についての宮崎委員の意見については、市誌として提供する情報については誤りのないものを公表したいと考えている。また、子ども編については横断的なものが必要と考えており、専門調査会委員に作っていただくよりは寧ろ学校教員や子どもに関わる方を含めて、地域教材として生かせるものにしていきたい。例えば事務局と教育会の教員の方と進めた方が良いとも思う。この他に文化課では毎年新しい市民の方が様々な視点で利用いただける刊行物を作成している。全てを市誌で網羅することは難しいので、既存の刊行物を活用しながら情報提供を行っていききたい。刊行物だけでなく講座なども含めて総合的に対応していきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・『安曇野風土記』は時代別や分野別ではなく、事象をまとめている刊行物である。今後は市誌と

セットで刊行していくのも良いと思う。個人的な意見では、あまり子ども用や市民用という視点に拘り過ぎると内容がおかしくなる印象がある。例えば川中島合戦のように物語になればなるほど、歴史的事実とかげ離れていく傾向がある。物語は分かりやすいので、そちらに流されてしまう。市誌は今後とも変わらない事実をしっかりと記述するものである。寧ろ市民に対して歴史活動をどのように作っていくか。市民がいかに市誌を通じて文化的に向上できるかが重要である。市誌を作って市民の文化がいかに向上するか。そこに子どもが入っているだけで、子どもだけに視点を向ければ良いということではない。

委員 ・市誌の中の子どもの要素をどのようにしていくか難しい問題だと思う。安曇野市教育会では小学生向けには『私たちの安曇野』を作っている。ここで中学生に向けたものを作るとき、その役割を果たすのは教育会なのか、市誌なのか、どの部分をどちらが担当するのか住み分けの必要性を感じる。住み分けの議論をしていく必要がある。

委員長 ・構想の中には「市民が編さんに関わる仕組みを作る」という文言がある。そうした中での組織・体制づくり、堀金委員が指摘された教育会との住み分け、そうした部分にもご意見いただきたい。

委員 ・豊科郷土博物館で勤務をしていると中学生が地域の学習で来館することもある。そうした時、例えば「安曇族は北から来たのか、南から来たのか」というような質問もされる。何を根拠にしているか聞くと穂高町誌といわれる。その後、安曇族に関する客観的な見解をいくら説明しても、一度覚えてしまった知識を塗り替えることは難しかった。市誌においては真実をいかに記述していくかが大事だと感じる。しっかりとした資料に基づく見解を示す必要がある。現在の学問的水準を維持した記述をしたい。資料の考古担当は辞めて、原始・古代にしてもらいたい。考古だとしても遺物だけのイメージになってしまう。

委員長 ・各分野の担当は良いが、事務局は文書館が担うことになっている。それぞれの専門調査会からあがってくる原稿のまとめを事務局では行わないといけない。単なる事務局でなくて、全体のまとめを編さん室が担わないといけない。全体的な統括をする組織が文書館の中で置く事が求められていると思う。本格的に始まる時には場所や職員配置の問題が出てくる。文書館は文書館としての業務がある中で、全体の縦軸・横軸をまとめる編さん室を担わなくてはならない。市誌という大事業を手掛けるには文書館の中にそれなりの組織を置く必要があると感じる。

委員 ・民俗部会を行っていく中で、編さん室という拠り所がないことが負担となっている。会議は、どこに・何を・どうやって連絡したら良いのか不安に感じるという意見から始まっていた。担当職員の配置はぜひ行ってほしい。

市長 ・当然最後は市史編さん室が必要と思っている。相当な組織がないとできない事業であることも認識している。当面は専任の職員を就けることを考えないといけない。

委員 ・民俗部会を始めてみて、デジタル化については委員の中にも子ども向けに早く情報を発信したいという気持ちはある。しかし、間違ったことを拙速に発信するのはどうかとも思う。それぞれの委員が慎重になっている。この問題も資料を取りまとめる部署があると円滑に進んでいくのではないかと思っている。もう少し組織体制の変革を待ってみてはどうか。中学生が使える市誌というが、地域教材の発掘は本来教員が担うべき業務だと思う。教員の皆さんにももう少し勉強してほしい。例えば編さん委員会に出席してみるとか。教員が忙しいことは分かっているが、市誌編さん委員会や専門調査会がどのようにして、何を検討して市誌を作ろうとしているか、どう情報発信していこうとしているのかわかっていただいて、その中から中学生が使えるものって何か積極的に意見を寄せてほしい。

委員 ・安曇野市教育会には地域教材の発掘に力を入れている教員のグループもある。『私たちの安曇野』を立ち上げた教員のように、市誌に関わりたい、地域教材を発掘したいという方もいる。そうした方々が委員会を見たり、住み分けを検討したりしていくことができると思う。教員の中には地域教材の下地を持っている方もいるので、それを集めていくことが必要に思う。市誌に関わ

りたい教員を募集すれば、何人かは参加してくれると思う。

委員 ・市誌作りは人作りだと思っている。若い人や興味のある人を積極的に専門調査会に取り込んでいく必要がある。学問の場の雰囲気も体験してほしい。今、想定されている専門調査会の体制だけではなく、市誌の方向性をしっかり固めて、どんな人材を必要としているか、その人材に繋がるように考えていただきたい。

委員長 ・市民がどのような場面で市誌に関わるか考えていかななくては行けない。

委員 ・誤解があると良くないが、私としても子ども編を曖昧なままで出してほしいと言っているわけではない。完成する子ども編が欲しいのではなくて、その途中で収集された資料で、すでに使えるものについては、安曇野市バーチャルミュージアム等を活用して早く公表してほしい。先ほど誤った情報は出せないという意見があったが、現状では既存の自治体誌にあるものをそれぞれの市民が勝手に解釈して使っている。それは誤っている場合もある。正しいものを十数年も待てない場合もあるので、その間子どもたちにどのような情報を提供するのか考えていただきたい。

(2) 民俗編の進捗状況について

事務局 ・民俗部会開催概要及び民俗編章立て案について説明

委員長 ・「民俗編 章立て案について」はあくまで資料編の章立てとのことだが、5地区それぞれにこの章立てがあるということか。5冊に分冊するのか。

委員 ・デジタルで公開することを想定しているため、ページ数などの制限は考えていない。5地区それぞれにまとめることを想定している。

委員 ・この章立てでは、どこにでもある民俗編のイメージとなる。倉石委員の意見で現在から過去に遡るという視点は面白いと感じた。ただその時はきちんと起点を入れていただきたい。これまでの民俗学は変わらないものには着目するが、変わったものには着目してこなかったように思う。時代の中でどう変化してきたか、時間距離を明確にする中で、この章立てを記述すれば新しいものができると感じた。現在の大きな課題として景観の問題がある。景観をどの分野で扱うか検討の余地はあるが、ぜひ民俗から見た景観論、集落論は入れるべきだと思う。

委員 ・なるべく期待に応えるようにしたい。民俗の資料は今まで現代から見るという視点が少なかった。写真を活用しながら、時代が分かるような書き方をしていきたい。

委員 ・どこにでもあるような民俗編ではなく、安曇野らしさが出るものを期待している。その点では構想の基本方針の中にある「諸要素の根源的な部分には安曇野市の山岳や水に代表される自然があり」とある。民俗編にも山岳や水に対応する部分にははっきりと表現される必要がある。例えば衣・食・住でも山岳や水に関する部分を意図的に入れなければ、どこでも同じものになってしまう。

委員 ・民俗部会に参加している立場から意見を述べる。民俗学の分野から現在に視点を持つことは新しい試みだと感じる。現在に着目すればするほど一般化された文化が見えてきてしまう。安曇野の固有性が見えない。一方で過去の事象ばかり見ると現在が見えてこない。現在と過去の間にかかなりの断絶があることを感じる。その断絶をどう記述していくのが課題だと感じる。網羅的に調査を進めいく中で、強調すべき内容を取り上げて調査しておく必要があるとも感じている。「諸要素の根源的な部分には安曇野市の山岳や水に代表される自然があり、そこから人間の営みが始まり、文化や産業に繋がっていったことを共通認識として持ちたい」という部分を専門調査会でも意識共有していく必要がある。その部分を、編さん室体制を組んで明確にしていくのか今の内に議論していく必要があると思う。

委員 ・おそらく各分野では何を記述するか大方固まってしまっている。事務局の方から最低何をいれるのか、何を柱にするのか提示してほしい。事務局の知恵が試される。それが出来るのが安曇野市だと思っているので、しっかり明言していただければ対応する。丁度良い本数の柱を用意していただきたい。

(3) 今後の進め方について

- 事務局 ・安曇野市誌民俗編関係事業計画（イメージ）について説明
- 委員 ・どこの市町村も郷土研究者が壊滅的な状況になっている。その部分に子ども編の作業部会が大きく関わってくると感じている。かつては学校教員が郷土研究者を兼ねていた。改めてそこをどう継承しながら新しい体制を考えていくのか知恵を絞るときだと思う。そういった意味で令和4年度は、教員や新しい人材を市誌編さんに取り込む体制づくりをしっかりと議論する期間に宛てたらどうか。
- 事務局 ・今の体制で安曇野市誌の編さんを進めるのは、どこかで無理が生じると考えている。組織体制や外部との協力体制を含めて検討していきたい。かつては教員を退職したら郷土史研究に進んでもらっていたが、今の教員は忙しく自己研鑽の機会が減っていることも承知している。人材がいないうという反動は博物館・文書館の職員に影響を与えている。出ていくばかりでは、知識も入らないため、講座のネタに困ることもある。在野の研究者不足は肌身で感じている。いずれ編さん室体制を組む必要性は真剣に考えていきたい。市誌編さんは人作りの機会になる。文書館業務の中でも大学などの学生がもっと利用してほしいと感じる。市誌に限ったことではないが、大学生や高校生との関係が突破口になればとも考える。
- 委員長 ・市誌の編さんもしっかりとした組織体制が必要である。

6 閉会